



(参考仮訳)

プレスリリース No. 09/424  
即時解禁  
2009年11月23日

国際通貨基金 (IMF)  
米国・ワシントン DC

**ドミニク・ストロスカーン IMF 専務理事、  
世界の政策当局者に対し、今後の課題への実効的対応に向け連携の継続を要請**

国際通貨基金 (IMF) のドミニク・ストロスカーン専務理事は本日、ロンドンのイギリス産業連盟 (CBI) の年次会議で講演し、世界経済は大きく前進しており現在回復の兆しが見られる一方、ショック或いは失策に対し依然として非常に脆弱な状況にあると指摘した。さらに、世界経済は持続的回復に向け分岐点にあり、政策当局者の政策判断が今後を左右すると述べた。

ストロスカーン氏は「嵐は過ぎ去り、最悪の状況は回避された。ただ、経済は安定し改善を見せているものの依然として非常に脆弱であり『小康状態』にある」と述べた。政策当局者が直面する「課題は重要である。危機の間各国は共通の目的の下団結していた。しかし、今後この機運が弱まることも考えられ、今後の道のりは不透明となるだろう。我々は首尾よくこの状況を切り抜けねばならず、そのためには従来とは異なる考えが必要となるだろう。我々が連携を継続しなければならないのは明白である」と付け加えた。

**政策当局者が直面する4つの課題**

政策当局者は今後、緩和的政策からの出口戦略、増加を続けるエマージング・マーケットへの資本フロー対策、世界レベルでの新たな成長モデルの構築、そして金融部門改革の構想並びに実施、といった課題4項目への対応を迫られることになるだろう。

ストロスカーン氏は出口戦略に関し、民間需要の持続的な回復並びに金融の安定性の明らかな兆候の確認をもって緩和策を解消することが肝要だと強調した。「全面的な解消には時期尚早である。解消が遅れた場合と比較し時期尚早な解消に伴うコストは大きいことから、その判断には慎重を期すべきである」と述べた。また、特

に先進国においては財政再建を最優先事項とすべきである。一方金融政策は、差し迫ってインフレの懸念がないことから、当面引き続き緩和的とすることができよう。

出口戦略に関連した課題として、新興市場国・地域への資本フローの管理が挙げられる。講演の中で、ストロスカーン専務理事は「多くの国にとって通貨の切り上げが最重要政策対応となろう。他の手段としては、金利の引き下げ、外貨準備の蓄積、財政政策の引き締め、さらには金融部門における健全性措置の実施が挙げられる。資本規制はこういった政策措置の一環とすることができよう」と述べた。一方で、同専務理事は「しかし、我々は全ての手段には限界があることを理解し、現実的になる必要がある」と述べた。

さらにストロスカーン氏は、世界レベルでの新たな成長モデルの構築という課題に言及し、米国の家計を成長の原動力とするこれまでのパラダイムは行き詰っていると指摘した。「世界経済の持続的な成長を実現しようとするならば、米国のこれまでの役割を引き継ぐ国が必要である。第一の候補は黒字国だ。我々は正しい方向へのシフトの例を見て取ることが出来る。中国を始めアジア新興国が輸出から内需へシフトしているのだ。しかし今後も努力を継続することが求められる」

最後にストロスカーン氏は、金融部門が更に安定するためには数多くの改革を推し進めることが不可欠だと強調した。規制当局が回復基調を危険にさらしかねない厳格な基準を新たに課すことを検討している一方で、金融機関が依然として困難な状況にある中、金融部門においてリスク選好が高まっていることを受け、政策当局者は課題を抱えていると強調した。ストロスカーン専務理事は「我々はこの困難に取り組むべきだろうか。ひとつの可能性としては、規制をめぐる不透明感を減ずることが挙げられる。規制の不透明感は誤ったインセンティブを与えていると共に、リスクテイクを促す恐れがある」と述べた。また金融部門のリスク管理については、リスクテイクと報酬の関係を打ち破ることが不可欠だとした。ストロスカーン専務理事は「この観点から、我々は G20 より金融部門への課税を検討するよう要請を受けている。これについては様々なやり方が考えられることから、我々は様々な角度から、全ての提案について検討する予定だ」と述べた。